

潮干狩り

五月二十四日、快晴。申し分のない潮干狩り日和。

「テントOK！バケツも熊手もOK！利用者も全員集合したし、忘れ物はないよね。誰？こんな大きなスコップや鍬を積んだの。そんなに貝がおるんかなあ。まあ、ええわい。行けばわかる。それでは、河原津へ向かって出発進行ー！」

こうして利用者の皆さんも職員も期待に胸をふくらませ、デイサービスえぐも号は川内町を後にした。えぐも号は順調に河原津へ向かっていった。途中、生木地蔵をお参りし、昼食をとり、河原津へ着いた頃には、すっかり潮もひいていた。早速、貝拾いに浜辺へおり立つ。海の香りを胸いっぱい吸ったその時、ハプニングは起こった。えぐも号は砂地にはまってしまった。それから一番笑い物になったであろうはすの大きなスコップと鍬が大活躍し、せっせと砂を掘った。その間利用者のかたがたには貝拾いに精を出してもらおう。最後のチャンスと、力いっぱいふんばって、ようやくえぐも号が砂地を脱

出した時、貝拾い一行は、掘っても掘っても久しぶりにしか会えない貝と徐々に満ちてきた潮に疲れ果て、戻ってきたところだった。

えぐも号は無事、川内町の土を踏んだ。「潮干狩り」とは名ばかりの一日のようではあったが、普段のデイサービスでは体験することのできない遠出のドライブ、海の香り、外食など思い出に残る一日を過ごしてもらえたのではないかと思う。皆さん、お疲れ様



私の大事なデイサービスセンターえぐも



北方 旦ノ上
田 中 照 子

私は平成七年二月で満八〇歳になりました。気力体力が衰えはじめ、自分の健康は自分で守ろうと願っていた心境もぐらつきだしました。かねて三恵ホームの職員の方に「来てみませんか。」とお話を頂いたことを思い出し、勇気を出して町の福祉課に相談しました。すぐに許可を頂き、三月からお世話になったのです。

最初迎えの車がくるまで、心はワクワク、でも少々不安があり複雑な気分でした。車に乗ってみれば顔見知りの方ばかり。「おはよう」と、この一声でホッとしました。到着してびっくり。庭にはお花いっぱい、明るい大きな室内、寮母さんに優しく迎え入れられ、温かい美味しいお茶を一服。健康チェックを受けた後、結構な温泉に入浴させて頂きました。私は何でも自分のことは自分でしました。が、身体の不自由な人には何から何まで手をかけられていた姿をみて、その優しさに心打たれました。男の方も一挙一動優しく心かけて下さって有り難くて涙が出ました。皆さんと一緒にいただいたお食事の美味しかったこと。幾年も一人ぼっちの食事ですから、感謝しながら残すことなく頂いています。唄ったり体操したり、色々な遊びに何もかも忘れて腹の底から大笑いし、不自由な人の手助けも出来たり、上手にできれば一緒に喜んだりいろいろ貴重なことを学びました。また、お花見、藤祭り、お誕生会、神事等にも参加させて頂き、楽しかった思い出がいっぱい出来ました。

こんな楽しい所に参加出来るのが何よりの幸せと思っています。心安らぐデイサービスに末長くごやっかひになりたいです。よろしくお願ひいたします。